

「リタとマッサン」の住んだ シロモダンのまち・帝塚山を往く

郊外住宅開発のさきがけとなった帝塚山。ウキスキーの父・竹鶴政孝夫妻（リタとマッサン）が住んだ瀟洒でモダンなお屋敷街を歩き、大阪市内で唯一前方後円の原形を止める帝塚山古墳に登ります。

④帝塚山古墳

後円部を北へ向ける前方後円墳で、全長約 120m、前方部の幅が約 50m、高さ約 8m、後円部の直径約 57m、高さ約 10m、前方部を南西に向け、二段に築かれています。前方部から出土した円筒埴輪から、4 世紀末～ 5 世紀初頭の古墳と推定される。前方後円墳として原形を止める大阪市内唯一のもので、上町台地の南端部に当り、古墳が築かれた当時は西側近くまで海が迫っていたので、海からもよく望めたものと思われま。大伴金村の墓という説もありましたが、6 世紀前半に活躍した金村とは時代が合わず、被葬者は不明です。

⑤帝塚山学院

大正 5 年（1916）に設立認可、翌年帝塚山学院小学部（小学校）を開校、翌々年には幼稚部（幼稚園）、さらに大正 15 年（1926）女学部（高等女学校）を開校し、地域の教育機関の中核的存在となりました。初代学院長の庄野貞一氏が提唱した「力の教育」と「自学主義」を伝統として引き継ぎ、現在は学校法人帝塚山学院として幼稚園から大学院までのすべての教育機関をもつ総合学園（帝塚山にあるのは幼稚園から高校まで）です。庄野氏の次男で童話作家の庄野英二氏も帝塚山学院で教鞭を執り、後に帝塚山学院大学学長を勤めました。三男で作家の庄野潤三氏が芥川賞を取った小説『プールサイド小景』は帝塚山学院のプールがモデルとなりました。

⑥高谷家住宅

銅板切妻屋根のてっぺんに風見鶏、二つの屋根窓と煙突が童話のような雰囲気を見せる、大正 13 年（1924）頃建築の住宅です。洋風の格天井と暖炉のある和室など、和洋の調和を生かした造りとなっています。応接間は船室に見立てて造られ、船室のように嵌め込まれたスタンドグラスにはヨットの絵が描かれています。

⑦帝塚山のモダン住宅

明治まで荒地だった帝塚山は住吉村の地主達によって住宅地として開発され、阪堺鉄道などの交通の便や、帝塚山学院など教育環境も整えられたことから住宅地としての人気が高まり、船場の大商人や資産家の住居と蔵の並ぶ街並みは大阪を代表する高級住宅地となりました。クラシックな白壁の蔵に混じって村野藤吾や安藤忠雄など有名建築家の作品が散在する瀟洒な街並みを散策しましょう。

③市川家住宅

母屋の 2 階部分が洋館、1 階が和式と帝塚山地域では珍しい和洋折衷様式の館です。漆喰の壁と木の床の響きが素晴らしいと、土蔵をフラメンコスタジオに改装し、帝塚山スタジオ・市川恵子フラメンコ舞踊研究所として使われています。

①神ノ木駅

かつて神木としてあがめられた古松があったから、或いは住吉大社神官の神奴氏の祖先神を祀った社があったからともいわれる「神ノ木」、今は上町線の駅名として残っています。路面電車が鉄道の上を走るレアスポットでもあります。



⑨姫松駅

明治 33 年（1900）、天王寺西門から東天下茶屋まで、馬 15 頭、車 7 両をもって創業された「大阪馬車鉄道」が現在の上町線の前身。木造の姫松駅舎は築後約 100 年になります。

⑧竹鶴夫妻住居推定地

英国から帰国して摂津酒造に勤務していた時代、竹鶴政孝・リタ夫妻は資産家芝川又四郎氏の家作を借りて姫松の辺りに居を構え、山崎に移るまでの約 3 年間をここで過ごしました。芝川氏の自叙伝などによってこの場所に竹鶴夫妻の借家があったと推定されます。

②撰津酒造跡

撰津酒造（撰津酒精醸造所）は、阿部喜兵衛氏が社長で、明治 40 年（1907）からアルコール製造に着手、自社で蒸溜したアルコールをもとに、ブランディ、ウイスキー、甘味葡萄酒などを製造し、大正当時は三大アルコール製造会社の一つといわれました。清酒「白牡丹」などの銘柄を持ち、住吉区住吉町 1063、現在の住吉東駅北側にあった醸造工場には専用の貨物引き込み線まで敷設されていましたが、昭和 39 年（1964）10 月、宝酒造に合併されて同社の大阪工場となり、さらに昭和 48 年（1973）3 月、工場は廃止されました。

知ってはる？ 竹鶴政孝夫妻と帝塚山の物語

大正時代の日本ではまだウイスキーはつくられていませんでした。大坂の旧住吉村にあった撰津酒造の阿部喜兵衛社長は、大阪高等工業学校（現大阪大学工学部）醸造学科卒業の社員竹鶴政孝をウイスキーづくり研究のためにスコットランドに派遣しました。大正 7 年（1918）、24 歳で現地に渡った竹鶴は刻苦勉強してウイスキーづくりを習得します。そして地元で知り合った女性ジェシー・リタ・カウと結婚します。大正 9 年に帰国した二人は、姫松（現帝塚山）の借家に住みました。ところが、撰津酒造は第一次大戦後の不況の中で、本格ウイスキーづくりの計画を棚上げ。竹鶴は悩んだ末、大正 11 年に同社を退職します。竹鶴は《浪人》の身となって、一時期、近在の桃山中学校で科学を教えます。リタ竹鶴夫人も帝塚山学院小学

校で英語を教えました。当学院の記録では、大正 11 年 9 月 20 日から大正 13 年 12 月 31 日まで教員として在籍しています。大正 12 年に竹鶴政孝は寿屋（現サントリー）に入社、山崎のウイスキー工場を立ち上げます。そして、昭和 9 年（1934）、寿屋を退職し、理想のウイスキーづくりのために、北海道の余市に自ら会社を起して、工場をつくりました（出資者のひとは当学院の後援者でもあった実業家の芝川又四郎）。当初の社名は大日本果汁株式会社でしたが、やがてニッカウキスキー株式会社になります。昭和 36 年（1961）、リタは 64 歳でなくなりました。夫竹鶴政孝の本格ウイスキーづくりの夢と志に寄り添いつづけた生涯でした。（『帝塚山学院物語』第 19 章）